

遺跡の事前把握で迅速な復旧・復興に貢献

スマホアプリなどを使った測量
を実習した11月27日、石川県
志賀町の古墳群で



日本文化財保護協会（山口寛理事長）が1月26、27日の2日間、能登半島地震復興支援を目的に石川県内で技術研修会を開いた。県内自治体の職員が埋蔵文化財（遺跡）の存在を予測する「デジタル遺跡踏査」の概要や解析手順などを学んだ。

遺跡の事前把握は震災復旧・復興のスピードに直結する。同協会は、デジタル遺跡踏査をさまざまな自治体に普及させたい考え。鵜飼良一専務理事兼事務局長は「石川県内での活用がモデルケースになれば」と期待する。
＝2面に詳しく